



京都大学
山本晃也君
(大阪市立此花中学校 出身)

大阪大学
金原成海君
(高槻市立第八中学校 出身)

大阪市立大学
林龍輝君
(高槻市立第八中学校 出身)

大阪市立大学
竹下大地君
(岸和田市立北中学校 出身)

大阪大学
大迫睦希君
(大阪市立淀川中学校 出身)

大阪市立大学
柳生孝志君
(金剛学園中学校 出身)

一人ひとりの個性を伸ばす

「育成の興國」ここにあり



理事長 校長
草島 葉子

いよいよ春の到来、ようやく到着したコロナワクチンに、長かった暗いトンネルにも、少し明るい兆しが見えてきました。勿論心配はまだありますが、悩んでばかりもありません。

オンラインワンの興國らしく前を向いて今年も一丸となって挑戦を続けた結果、お蔭様でこの厳しいコロナ禍にあつても、3年生はその心配をよそに、立派に成長して進路結果を報告してくれています。5年連続京都大学現役合格をはじめとする国公立大学、I.Tビジネス科からは見事に大阪府立大学3名の合格、関関同立近大といった関西の私立大学だけでなく、慶應義塾大学、明治大学、中央大学など関東圏にも進出。医歯薬系も東北医科薬科大学医学部への合格、クラブ活動をしながらの難関大学への合格とその勢いは止まりません。それも高校に入ってから皆さんしっかり学習や練習を続けられてきた結果です。大学に入るとは夢のようだったと言いながら、自分の力で合格を勝ち取った生徒が大半です。就職では高校生では最難関といわれる国家一般職、皇宮護衛官をはじめJR東海、JR西日本など大手企業からも内定を頂戴し、彼らの底力を見せてくれました。

その一方で、史上最高4名の横浜F・マリノス入団、そしてツエーゲン金沢の1名を合わせて5名のリーガー誕生に沸く内野監督が率いるサッカー部も、全国紙やテレビ、ネット上でも高い評価を頂戴していますが、共通しているのはその伸び幅です。この学校に出逢っていないと見ることのできない世界をお見せする。そういう教育ができるようになってまいりました。

ある新聞は本校を「育成の興國」と評してくださいました。実はたった一言で表されるこの言葉ですが、その秘訣は何ですか？とインタビューを受けたのです。学校の施設を充実させることも大切なですが、施設ばかりを作っても、そこに良い指導者がいなければ結果は出ません。これは教育のバランスが重要だということです。面から伸ばすのではなく、多様な教師陣、コーチ陣、様々な経験を積んだ人間との出逢いがあつてこそ、能力は開花します。

高校生を育てているというよりは、人間を育てているという視点がないと大きく成長しません。その中で指導する側も成長させていただく。良い循環がよい環境になるということです。そのうえで最初にするべきこと、これは言うまでもなく心の習慣を作ることです。

今までできなかったことができるようになるには、この習慣がすべての原動力になります。自分の限界を作らず、高い志を持ち、良い仲間と出逢えば、自然にそれが可能になります。

卒業式の日、そのことを証明するかのよう、いつまでも別れを惜しんでいた姿に、彼らの熱い3年間がいかに素晴らしいものであったかを感しました。

興國学園で出逢うすべての人々とこの感動を共有できるよう、今年度も生徒たちと一緒に邁進してまいります。厳しい時間を経てより豊かな心を大切に、百周年に向けて二層帆を高く上げて航海は続きます。どうぞよろしく、ご期待くださいませ。